

人物試験対策講座 講義編

人物試験（人事院面接）は個別面接で、時間も 15～20 分程度と短く、事前に提出した面接カードに従って、質問される形式なので、筆記試験に比べると相当軽視される傾向がある。しかし、配点は想像以上に高く、さらに、院卒区分および教養区分受験者の場合、面接は政策課題討議試験の直後に実施されるため、体力・精神的に疲弊した状態で迎えることになり、集中力の持続が課題となる。人物試験に苦手意識を持ってしまうと、最終関門である官庁訪問突破もおぼつかないことから、入念な準備が必要である。

第 1 節：人事院面接の概要

※ 主旨・概要

人柄、对人的能力などについての個別面接（15～20 分程度で、受験者 1：面接官：3）。事前に提出した面接カードに従って、質問される。

配点：教養区分 6 / 2 8（1 次試験の基礎能力試験（ⅠⅡ）合計よりも比重が高い！）

それ以外 3 / 1 5（1 次試験の基礎能力試験よりも高く、専門択一試験と配点比重が同じ）

※ 2020 年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、一部試験科目が割愛され配点も大幅変更された。

・教養および院卒区分の場合、例年、同じ日に実施される「政策課題討議」の直後に行われる。

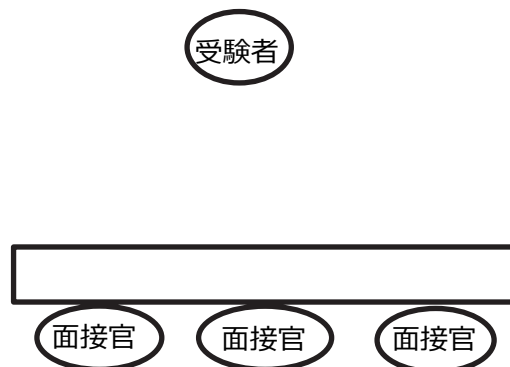
・面接日時については、教養区分は 1 次試験合格発表後、その他区分は例年、二次試験（筆記試験）時に通知される（院卒だけは別途通知）。

教養区分・院卒区分受験者へ

…政策課題討議試験よりも配点が高い！しかも、面接は政策課題討議試験の直後に実施されるため、体力・精神的に疲弊した状態で迎えることになるので、集中力の持続が必要。

※ 試験実施方法（過年度の事例なので、変更される可能性もあります！）

① 座席が下記のように配置され、受験者 1 名に対し面接官 3 名（通常、真ん中の面接官は人事院の職員で、この人が主に質問する）となっている。



② 基本的に面接カード（次ページ参照）の記述内容に沿って質問がなされる。

★ 評価について（年によって、点数は若干変動する）

総合判定	A	B	C	D	E
標準点（2019 教養）	170	136	101	65	－
標準点（2018 学部）	168	134	96	62	－
標準点（2018 院卒）	170	132	95	61	－

総合判定がEの場合は、他の試験種目の成績にかかわらず不合格となる。

【参考】本試験における各区分の最終合格点（いずれも1000点満点）

2019 教養区分：533 点、2018 院卒区分（行政）：491 点

2018 政治国際：584 点、法律：533 点、経済：539 点

面接カード（総合職）2020

このカードは人物試験の際に質問の参考資料とするものです。事前にボールペン(自筆)で記入してコピーを2部取り、原本と併せて3部を人物試験当日に持参してください。(様式を変更しないでください。)

なお、出身校や会社名などが特定されるような記入は避けてください。(該当する□には✓を付けてください。)

試験の名称	試験の区分	ふりがな 氏 名
第1次試験地	受験番号	
[最終学歴] ☐ 大学院(博士・修士・専門職) ☐ 修了・卒業(年 月) ☐ 大学 ☐ 在学 (年 月 修・卒見) ☐ その他() ☐ 中退 (年 月)		[職 歴] ☐ ある ☐ ない 主な職種
[専攻分野]		

[これまでに取り組んだ活動や体験] 達成感があつたと感じたり、力を入れてきたりした経験について、どのような状況で(いつ頃、どこで、誰と等)、どのようなことをしたのか、簡潔に記入してください。

① 学業や職務において

② 社会的活動や学生生活において

③ 日常生活その他（資格、特技、趣味、社会事情などで関心のあること等）において

[志望動機] これまでの体験や自分の長所などを踏まえ、国家公務員としてどのような貢献ができるのか、具体的に記入してください。

[志望官庁]（複数可）
